

## 学習塾における指導品質保証の取り組み (塾講師検定制度とスキルディクショナリー)

### ◆ 検定制度開発の背景

近年、私学志向や公教育不信等を背景に、学習塾を利用する児童・生徒数は増加傾向だが、その講師については、約6割が大学生を中心とした非正社員である実態が指摘されるとともに、その課題として「定着率の低さ」「能力開発機会の不足」「講師の能力評価に関する客観性の欠如」等が挙げられている。

これらの課題を踏まえ、**社団法人全国学習塾協会**では、各学習塾における優秀な人材の確保・育成を図るために、学習塾講師能力評価システムの構築に取り組み、平成19年度には、学習塾のミッションと期待される講師像を定義した上で、「学習塾講師集団指導2級（以下、集団指導2級）」及び「学習塾講師集団指導1級（以下、集団指導1級）」検定制度の枠組みを設計した。

※経済産業省のサービスイノベーション創出支援事業として  
「学習塾講師能力評価システム高度化事業」

※社団法人全国学習塾協会 <http://www.jja.or.jp/main.html>

### ◆ どんなスキルを評価するか

- ・今まで客観的な授業力評価のしくみはなかった
- ・実態としては…合格実績、生徒獲得、退塾ゼロ、満足度アンケート
- ・カリスマ講師・トップ講師・スーパー授業ではない
- ・基本スキル、客観的な評価、見える化⇒研修可能 ※自動車運転免許

### ◆ 検定の目的について

検定制度とは、「①学習塾講師のスキルの可視化」、「②キャリア・アップの指針となる到達水準の具体化」を目指すものであるが、その実現のためには「③審査方法の標準化と審査基準の明確化」が必須である。

### ◆ スキルディクショナリーについて

上記の目的を達成するためには、より明確に塾授業における基本スキルを定め、それをわかりやすくかつ具体的に示すことが必要と判断し、スキルディクショナリーを開発した。さらに、スキルディクショナリーに準拠した研修用のDVD映像を製作した。

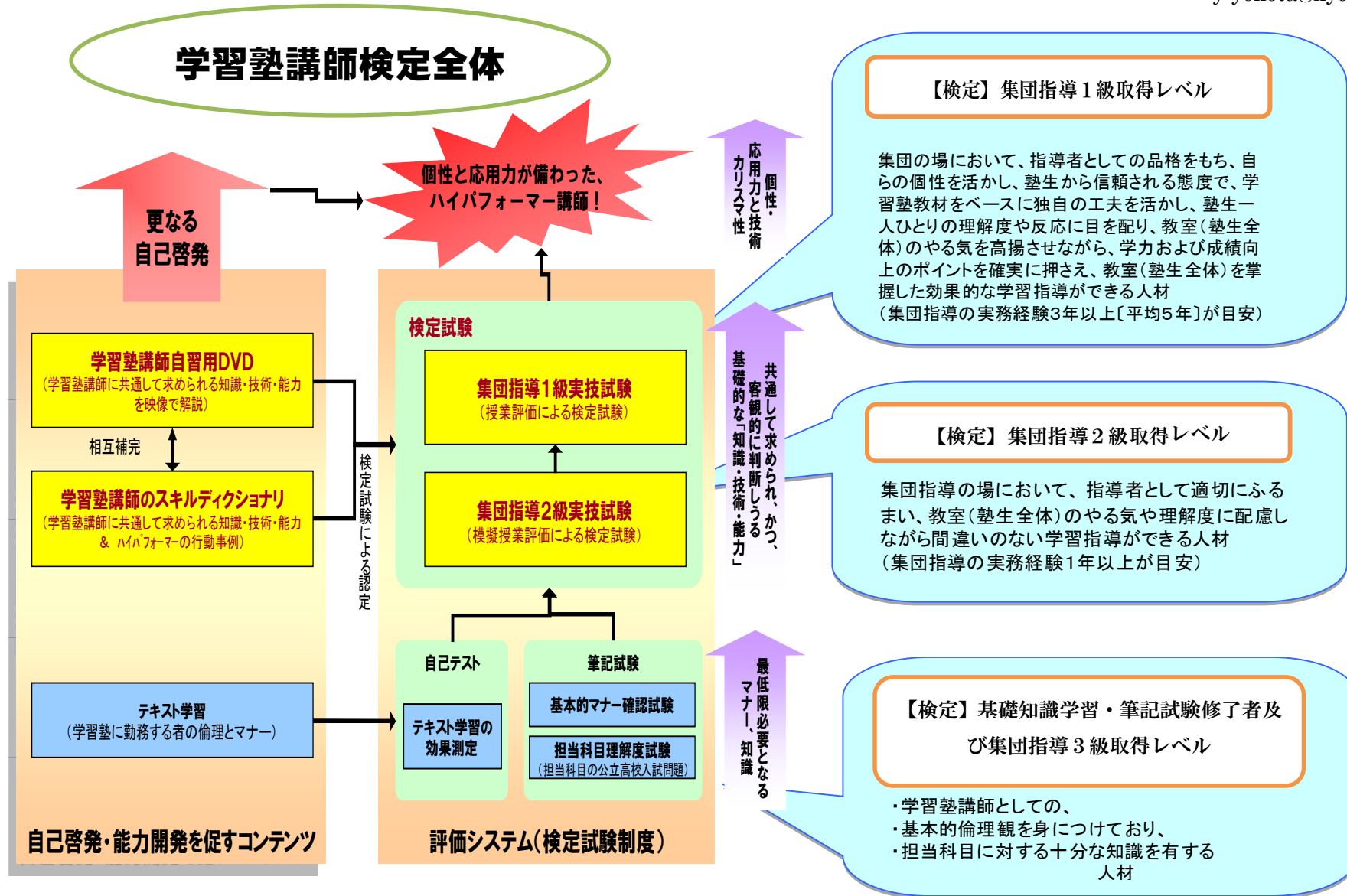
### ◆ 開発の状況

- 08年 2級検定制度開始 スキルディクショナリーの開発  
主任審査員の養成
- 09年 認定審査員の養成 1級検定制度審査法の検討
- 10年 1級検定制度実施予定 個別指導検定制度の開発

### ◆ 課題

- ・業界全体にこの検定制度を普及させること ※受験料12,000円
- ・公平で公正な審査の実現→認定審査員の研修、研修ツールの開発

# 学習塾講師検定全体



☆ スキルディクショナリの全体像・構成

学習塾の授業は基本的に「導入→展開→まとめ」の構成となっている。学習塾講師は、授業の流れに応じた適切な行動を取る必要がある。

学習塾講師が授業をする際には、「塾生に学習を動機付け」「塾生に授業に集中させる」とともに、「塾生に学習内容を理解させる」ための行動を取る必要がある。それぞれ必要となる行動は異なり、必要となるタイミングも異なるためである。



☆ スキルディクショナリの項目一覧

	I. 導入	II. 展開(演習)	III. まとめ
A 学習を動機づけるための行動	<p><b>1. 授業の位置づけの明確化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>当該単元や本日の授業で、何をやるのかを明確に説明している</li> <li>前後の授業や他の単元などとの関わりを説明している</li> </ul> <p><b>2. 授業内容に興味を持たせる工夫(導入時)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業内容について、塾生に興味を持たせる工夫をしている</li> </ul>	<p><b>1. 授業内容に興味を持たせる工夫(展開時)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要に応じて、授業内容について、塾生に興味を持たせる工夫をしている</li> </ul> <p><b>2. 授業中の激励など</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>塾生の反応をみて、励ましの言葉ややる気を喚起させる言葉をかけている</li> </ul>	<p><b>1. 授業の位置づけの再確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本日の授業や当該単元では何をしたのかを説明している</li> <li>前後の授業や他の単元との関わりを説明している</li> </ul> <p><b>2. 授業内容に興味を持たせる工夫(まとめ時)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本日の授業内容について、塾生の復習や次の予習を促す工夫をしている</li> </ul>
B 学習内容を理解させるための行動	<p><b>1. 導入時の説明・発問のタイミング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最初の説明や発問のタイミングが適切であり、円滑な授業の展開を導いている</li> </ul> <p><b>2. 導入時の説明・発問の内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最初の説明や発問は、適切な題材を用いて、塾生にわかりやすく問いかけている</li> </ul>	<p><b>1. 適切な説明・発問・例示</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>例示や発問の回数・タイミングが適切である</li> <li>塾生の理解の定着を図るために、工夫された説明・発問・例示がある</li> </ul> <p><b>2. 塾生の理解確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>塾生の理解度をチェックするための発問をしている</li> <li>塾生の表情や応答などから理解度を解釈し、確認している</li> </ul> <p><b>3. 説明・発問・確認・対応の流れ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>塾生の理解を促すための発問・確認・対応の流れが適切である</li> <li>特に授業の要点などが明確にわかるように説明している</li> </ul> <p><b>4. 塾生の応答に対する対応</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>塾生の応答に対するリアクションが適切である</li> <li>塾生に確認したことを活かした説明ができています</li> </ul>	<p><b>1. 塾生の理解確認</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>塾生の理解度をなんらかの方法で最終確認している</li> </ul> <p><b>2. 要点の明示</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の要点などが明確にわかるように再度説明している</li> </ul>
C 授業に集中(参加)させるための行動	<p><b>1. 導入時の話し方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>惹きつけられるような話のリズムであり、強弱・緩急がある</li> <li>声の大きさが適切で、明るく、聞き取りやすい</li> </ul> <p><b>2. 導入時の態度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>立居やふるまいが適切である</li> <li>表情が豊かであり、目線が教室全体に行き渡っている</li> </ul> <p><b>3. 導入時の授業運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定の塾生の行動に流されず、教室全体を把握した授業を開始している</li> </ul>	<p><b>1. 展開時の話し方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>聞いていて苦にならない話のリズムである</li> <li>声の大きさが適切で、間、明るさがあり、聞き取りやすい</li> <li>要点の説明などが明確にわかるよう、話の強弱やスピードをコントロールしている</li> </ul> <p><b>2. 展開時の態度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>立居やふるまいが適切である</li> <li>表情が豊かであり、目線が教室全体に行き渡っている。</li> </ul> <p><b>3. 板書による説明</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文字が塾生からよく見えて、目的に応じた板書をしている</li> <li>長い時間、塾生に背を向けた板書をしていない</li> <li>板書が授業の流れを妨げていない</li> </ul> <p><b>4. 講師の意欲・情熱</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講師の意欲や情熱・使命感が伝わってくる</li> </ul> <p><b>5. 展開時の授業運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定の塾生の行動に流されず、教室全体を把握した授業をしている</li> <li>常に授業に塾生の注意を向けさせる工夫をしている</li> </ul>	<p><b>1. まとめ時の話し方</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>惹きつけられるような話のリズムであり、強弱・緩急がある</li> <li>声の大きさが適切で、明るく、聞き取りやすい</li> </ul> <p><b>2. まとめ時の態度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>立居やふるまいが適切である</li> <li>表情が豊かであり、目線が教室全体に行き渡っている</li> </ul> <p><b>3. まとめ時の授業運営</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特定の塾生の行動に流されず、余裕を持って、教室全体を把握したまとめをしている</li> </ul>

☆ ユニット項目別・事例シート

■ 行動ユニット I-C

【行動基準策定の考え方】

- ・ 授業の初めにけじめをつけ、集団における講師のリーダーシップを発揮し、円滑な授業運営をするための行動

	1. 導入	2. 展開(演習)	3. まとめ
A. 学習を動機づけるための行動	行動ユニット1-A	行動ユニット2-A	行動ユニット3-A
B. 学習内容を理解させるための行動	行動ユニット1-B	行動ユニット2-B	行動ユニット3-B
C. 授業に集中(参加)させるための行動	行動ユニット1-C	行動ユニット2-C	行動ユニット3-C
総合、基本的マナー、授業科目の知識(共通)			

求められる行動基準	(参考) ベテラン講師などの行動事例
1. 導入時の話し方 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 惹きつけられるような話のリズムであり、強弱・緩急がある</li> <li>・ 声の大きさが適切で、明るく、聞き取りやすい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 元気のない小さな声が最も良くないが、大きすぎる声も状況によっては問題である。最低限、一番後ろの生徒にも聞こえるような声の大きさは必要である。聞き取りやすく話しているかどうかは、生徒の表情をみて確認する努力をしている。</li> <li>・ 「えー、あー、うー」といった余計な言葉を使わない。言葉を咬まないようにしている。授業前に「滑舌」をして、生徒に聞きやすい発音を心がけている。</li> </ul>
2. 導入時の態度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 立居やふるまいが適切である</li> <li>・ 表情が豊かであり、目線が教室全体に行き渡っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 立ち位置を正面中央にして、半歩前に出るつもりで話し始める。</li> <li>・ 導入時に、すぐ黒板に向かうのではなく、生徒を引き込むような元気な姿勢を見せている。</li> <li>・ 使用するテキストを高く掲げて、何を準備すべきか生徒に分かるようにしている。</li> <li>・ いつまでもおしゃべりしたりして集中しない生徒には、はじめに目線で注意し、それでもだめなら言葉で注意するようにしている。</li> </ul>
3. 導入時の授業運営 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定の塾生の行動に流されず、教室全体を把握した授業を開始している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「起立・礼・着席」の号令を行うことでメリハリをつけている。</li> <li>・ 授業で不必要な鞆や道具は、机の下に置かせてから授業を始めている。</li> <li>・ 遅れてきた生徒がいる場合は、指示(テキストの該当箇所など)をした上で、すぐに座らせている。</li> <li>・ 授業開始前の生徒の表情・会話に気を配っておき、学校での話題などからはじめることで授業をスムーズにスタートさせている。</li> <li>・ 「では、ノートを開いて」「ではプリントを表にして」というように、号令で生徒の行動が一斉に揃うようにしている。</li> <li>・ 出席の状況をチェックして、欠席者のフォローに配慮している。</li> </ul>